

科学技術政策担当大臣等政務三役と
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合
議事概要

- 日 時 平成27年5月21日（木）10：16～10：45
- 場 所 中央合同庁舎8号館 6階623会議室
- 出席者 平副大臣、松本政務官、原山議員、久間議員、
橋本議員、平野議員、大西議員
阪本内閣府審議官、中川審議官、松本審議官
I T総合戦略室 市川参事官

○議事概要

○原山議員 皆様おはようございます。科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を開催させていただきます。

本日は、山口大臣、議員のほうでは内山田さん、小谷さん、中西さんが御欠席ということでございます。

本日の議題は1つです。「I T総合戦略本部における取組状況について」ということで公開とさせていただきます。よろしいでしょうか。

では、プレスの方いらっしゃいましたら、どうぞ。

(プレス入室)

課題1. 「I T総合戦略本部における取組状況について」について

○原山議員 では、早速始めさせていただきます。

第5期科学技術基本計画の策定に向けてという形でもって、さまざまな関連する省庁、または団体などからのヒアリングをさせていただいていると同時に、さまざまな司令塔本部というのがございます。

本日は、これまで健康・医療戦略推進本部、総合海洋政策本部、宇宙開発戦略本部、知的財産戦略本部に続きまして、本日はI T総合戦略本部から検討状況についてお話を伺い、できる

限り総合戦略のほうに盛り込むという趣旨でもってお話を聞かせていただきますので、プレゼンよろしくお願いいいたします。

なるべく手短にさせていただいて、議論の時間をとりたいと思います。よろしくお願いいいたします。

< I T 総合戦略室 市川参事官より説明 >

○原山議員 ありがとうございます。

最後のほうではC S T I との連携についての具体的な御提案をありがとうございます。

ここから質疑応答に入りますので、御意見、御質問ございましたら、どうぞ。

では、橋本さん。

○橋本議員 少しわからなくなってしまったのですが、セキュリティーの話は、ここでやっていないんですって。

○市川参事官 はい、セキュリティーについては、別途サイバーセキュリティ戦略本部がこの1月に立ち上がりましたので、そちらの方が、我々と連携しながら、対応します。

○橋本議員 いつも産業競争力会議のときに一緒にご説明いただくので、どっちがどっちか混乱してしまいましたが、わかりました。

そうすると、私がここでいつも感じているのは、研究開発の大きな方向性のところと社会実装のところはかなりもっと密接に方向性を共有しておく必要があるということなのですが、事務レベルでは議論がかなり共有されているのでしょうか。今政府全体として、I C T を成長戦略の中心に据えて引っ張っていきましょうという大きな動きがありますよね。今度の成長戦略でも、多分それが非常に大きなものになっていくのだと思います。

先ほどもお話ありましたように、第5期に向けてそれが重要だという議論をしているのですが、ある意味、ここではきょう初めて戦略本部の話詳しく聞いたわけですね。事務局同士ではかなり連携されているから、我々の議論にもそこは常に反映されていると思っていんでしょうか。そのあたりがちょっと不安なのですけれども、どのような感じでしょうか。

○市川参事官 その件については、総合科学技術・イノベーション会議の事務局のほうからもコメントいただければと思いますが、以前から情報共有はしていますが、今回特に御説明いただいたように再興戦略、あるいは成長戦略全体でも一時期より強化になってきており、また、

その中で科技・イノベーション会議でもITなり超スマート社会になっているというところがあり、そのような状況を踏まえて、今回この紙をつくる時も、今後の在り方も含めて、議論はいろいろさせていただいております。あとは、これは久間議員のところからやっていたワークショップにも我々も参加させていただいて、そこでいろいろ情報共有させていただいたというところではないかというふうに認識しております。

○原山議員　どうぞ。

○久間議員　ITSの自動走行では、IT総合戦略室と我々のSIPが連携し、うまく情報共有が出来ています。こういった例を、例えば次世代インフラとか、農業システムとか、防災・減災などにも広げて、情報共有を強化したいと思います。よろしくをお願いします。

○原山議員　中川さん。

○中川審議官　IT戦略本部事務局の参事官からもさきほどお話ありましたように、事務的レベルで、個別プロジェクトなどを調整するとき、例えば総合戦略に書く内容といったことではかなり密に連携調整をしております。一方、今参事官から最後の方で御紹介いただいたように、当会議とIT本部がマクロに見たときにどのような関係にあるのか、といった全体像としての整理は、多分今回、第5期基本計画策定に向けて、各司令塔本部からのヒアリングというようなことがあって初めて整理したものですので、橋本先生の御指摘、マクロに見たときにどういう位置づけかということもしっかりとらんで5期を考えていくという意味では、本日のご議論のような整理も重要なものだと考えております。

○橋本議員　やはりこのマクロに見た位置づけ、こういうのをかなり一例えば、第5期の基本計画を検討する前にこういうような議論を1回しておかないといけない。いけないというか、そういうのがあったほうがよいのかなという気はします。

先ほど御紹介いただいた産業競争力会議のワーキンググループのほうで、私は主査をやっています、実はこの話はいつも聞いています。それが、ここではそういう話を聞いていないなというふうに、何となく前からの感じで思っていました。

なので、今度のこれは研究開発とかなり密接につながっていくところですので、こういう仕組みを何かつくっていただく必要があるんじゃないかなという気がします。大きなマクロのところについての意向合わせというか、そういうようなものが必要なかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○原山議員　SIPのさまざまなプロジェクトの中で、具体的なところで関与させていただいて

いるというのが1つなんですけれども、今橋本さんがおっしゃったIT本部としてのかかわり方というのが中間取りまとめの中でも一番最後のところにある他の戦略本部との関係性というのが重要と言いながら、具体的なアクションにまだ踏み込んでいなかったというのがこれまでの反省です。

ですので、今からでも遅くないわけであって、第5期の間はどういうふうな形でもって連携とっていくかというのを、できる限り具体的なところを共有させていただければというのが1つ。

ですので、きょうは初めの一步ですけれども、今後深めるということだと思います。

それから、その視点から行くと、研究開発ももとより、先ほど10ページのときで人材育成・教育というふうにおっしゃっているんですが、ここでもかなり議論しているのがビッグデータの世界になっていて、ICTというものは単純にICTの技術屋さんだけではなくという話になると、一步踏み込んだときにどのような人材育成の中身が必要になるか。その辺のところというのがそちらでも議論しているのであれば、一步踏み込んだ形で具体的ところを少しお話しただければと思いますが。追って事務局同士でやるのもですが、もし何か言及いただければ。

○市川参事官 おっしゃるように我々どものほうでも広い意味でのITの人材というところで検討しているので、そういったところを連携していかないといけないかなと思います。

具体的には、ITに係る人材としては、かなり幅広く検討しておりまして、1つはITリテラシーみたいな話から始まって、あとは初等中等教育、あるいは教育におけるITの利活用の分野、これはデジタル教科書とか、そういったところも含まれますが、そういった流れの中で一番関心があるのは、プログラミング教育をどうしていくかというところ。

それともう一つ加えまして、先端の技術を使ったIT技術者、専門的なITの技術者の確保・育成の観点。この中には、おっしゃるような話として、ビッグデータを利活用できるような人材をどういうふうにしていくかといった点も含めて幅広く議論してきております。これらについては、一昨年に報告書を出して、今後の取り組みの方向を示しているわけでございますが、その中でもさらに、プログラミング教育をどうするかなどの議論もさらにまた深めてやっているというところがございます。もし、そちらのほうでもITに係る人材というところに強調しているということであれば、やはり連携していかなければいけないのかなと認識しています。

○原山議員 大西さん。

○大西議員 今回の議論をちょっと別の角度からお尋ねしたいんですけども、3ページのところに「IT総合戦略本部の事務」というのが青い箱の中の左上にあります。これの中に「経費の見積りの方針の作成」「施策の実施に関する指針の作成」というのがあって、一方でCSTIは御承知のように総合戦略を毎年つくって、それから去年の場合はアクションプランで省庁の予算をヒアリングして共同作業で熟度を上げていくというようなことをやってきたわけです。

IT総合戦略本部もこの「経費の見積り」とか「施策の実施に関する指針の作成」の過程で似たようなことをやっているとする、省庁から見ると両方に同じようなことを持って行って説明するというふうなことが実質的に必要になっている、行われているというふうに考えていいのか。それとも、ちょっと質は違うというか、レベルが違うのか。

○市川参事官 御説明させていただきます。

その点、御指摘のとおり、同じようなことをやっているということになりますので、これは我々どもにおける省庁見積り、予算のヒアリングとかについては、この2年前くらいからやり始めているという状況もございまして、運用上は科技の事務局さんと調整させていただいて、同じフォーマットでできるだけ出してもらうようにするとともに、もし重なっているところがあれば、科技のほうでヒアリングするものは我々ではヒアリングをしない、また、科技でヒアリングするときには、我々どもも参加してそこで傍聴する、科技のほうでヒアリングをしないものについては、我々がヒアリングする。こういった運用をさせていただいています。

今後、これがさらにかぶってくるとどうするのかというのは、また御相談させていただきたいなというふうに思っています。

基本的には研究開発に係るところは科技さんに任せますし、社会実装のところはうちが見ているというところで、かぶっているところはそんなに多いわけではないですが、一部重複するところについてはそういう対応をさせていただいていると、こういう状況でございます。

○原山議員 ほかに何かございますでしょうか。

○久間議員 IT戦略とセキュリティー戦略は、本来一緒に検討をしないといけない。また知財・標準化も密接に関係しているから、CSTIも含めて4つの司令塔が、もう少し頻繁に話し合う機会をつくったほうがいいと思います。

○橋本議員 全くそう思います。だから、私もセキュリティーと一緒にってしまったんです。

特にセキュリティーの場合、人材育成が今すごく重要でして、ここに絡んでくる話なのです。

ただ、今緊急に人材が必要なので、それは今いる人たちをうまく動かすということで議論していますが、もうちょっと中・長期的なものも考えなくてはならない。そこはすごく重要なところで、完全にこことオーバーラップするのですが、何か全然議論がされていないなというのは気になっていて。そこですよ。

○久間議員 私はS I Pを担当しているので、自動走行ではIT戦略本部と情報共有しながら研究開発を進めていますけれども、もう少し範囲を広げる、例えばS I P「自動走行」でつくったプラットフォームを「農業」など他の課題にも使うとか、共有した情報を人材育成にも活用することも可能になるでしょう。そういう機会をぜひつくりたいと思います。

○原山議員 可能な限り具体的なある種の情報の共有とすり合わせできるような仕掛けというものを考えていきたいと思いますので、そちら側からも何か御提案いただければうれしいですし、内部でも、また他の、いわゆる先ほど申し上げましたように、さまざまな本部があるわけで、そことの連携の強化というものをうたいながら、具体的なものはまだ見えてきていないので一緒に考えさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、本日は本当にありがとうございました。今後も一緒に仕事をさせていただければと思います。ありがとうございました。

これを持ちまして、本日の政務三役とイノベーション有識者会議との会合を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上